



令和元年12月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

## 土肥で水産イノベーション事業を活用したテングサ保全活動開始

近年、伊豆半島西岸ではテングサの不漁が深刻化しています。一大産地である土肥でも、着生量の少ない不良漁場が拡大しており、漁業者は危機感を募らせています。そこで伊豆漁協土肥支所では、テングサ漁場を何とか残すため、水産イノベーション対策推進事業を活用した漁場の保全活動を開始しました。

活動内容は、テングサの着生を阻害する小型の雑海藻の除去、成熟したテングサの投入（スポアバック方式）による胞子の供給です。11月15日に初回の活動が行われ、ダイバーが漁場に生えた雑海藻を除去しました。その後、他の漁場で採取したテングサの投入作業も行われました。今後は胞子供給のためのテングサの交換、モニタリング活動を実施していく予定です。



↑岩に生えた雑海藻を除去するダイバー

解説1：水産イノベーション対策推進事業：水産業に関する新たなアイデアの実現を促進するため、県がスタートアップの経費を支援する事業。

解説2：スポアバック：成熟した海藻を袋に詰め、海藻を増やしたい場所に設置することで、胞子を供給する。

## イセエビ幼生の大量採集が続く

当场ではイセエビのプエルルス幼生採集器を白浜漁港岸壁に垂下し、これを週に数回引き揚げ幼生を採集しています。採集尾数は当地に補給された資源量を表す指標と考えられますが、今年5～11月の採集尾数は計96尾で、1採集器1日当たり採集尾数0.22尾は調査を始めた昭和57年以降では高水準の採集量です。昨年も高水準であったので来年以降の好漁につながることを期待します。



↑イセエビのプエルルス幼生と採集器

解説：プエルルス幼生：卵から孵化したイセエビの幼生は、約1年間、太平洋で浮遊生活をした後に遊泳力のあるプエルルス幼生に変態し、日本の沿岸に戻ってくる。その時に海藻等に付着するので、人工海藻を植えた採集器で幼生を採集できる。

## 中学生が伊豆分場で職場体験学習

11月7日、下田東中学校の生徒3年生2名が当场に職場体験学習に訪れました。

職場体験は午前8時30分から午後3時までのスケジュールで、水温比重観測、スルメイカの解剖・測定、イセエビ幼生の採集、飼育生物への給餌などを体験してもらいました。初めてのイカの解剖は最初は緊張していましたが、興味を持ち熱心に取り組んでいました。



←スルメイカの解剖を体験

解説：職場体験学習：下田東中学校では「総合的な学習」の一環として取組んでおり、働くことの意義や厳しさを学び、学校生活や進路決定に生かすとしている。

**12月の予定** ●6日に静岡市で静岡県青年・女性漁業者交流大会が開かれ、伊豆漁協下田田牛地区の青壮年部が発表します。 ●1～6月までの定置網の漁模様の予測を発表します。 ●フェリーを利用した西伊豆産水産物の静岡地区への試験流通を実施します。 ●アビ類の加入量調査を行います。 ●稲取で水産多面的機能発揮対策事業（テングサ藻場維持のための雑藻刈）が行われます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。